

MIE UNIVERSITY NEWSLETTER

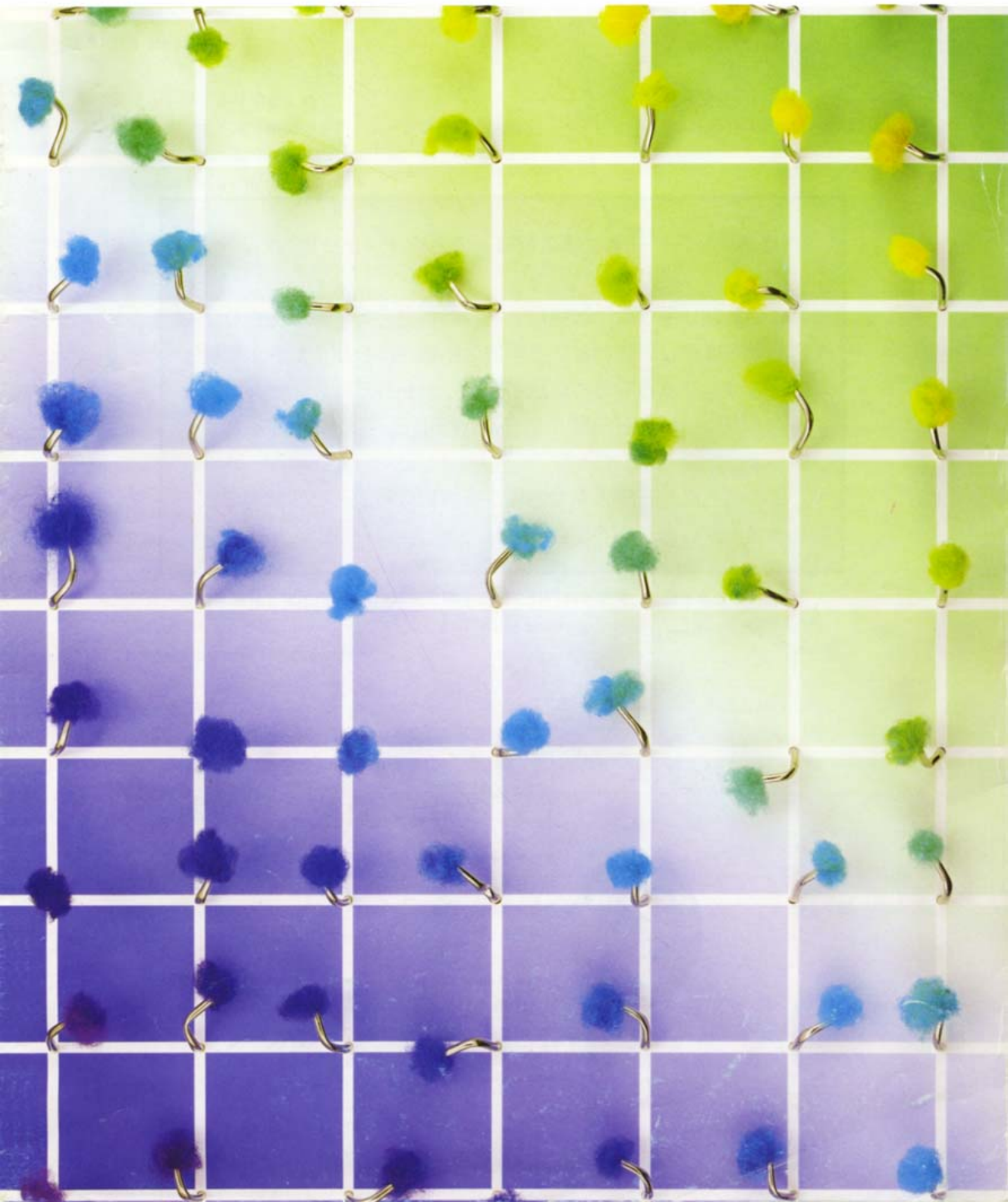
1994. 3. 31

ウェーブ三重大

創刊号



三重大学広報委員会



学外向けの「三重大学広報誌」の名称が決まりました。

このたび「三重大学広報誌」を一新して発行するにあたり誌名を学内募集しましたところ多数の応募がありました。広報委員会では、これらをもとに誌名を「ウェーブ三重大」として副題を MIE UNIVERSITY NEWSLETTER とすることにしました。

この誌名は、三重大学が発信する情報（電波）と伊勢湾の波をイメージしたものです。



表紙デザイナープロフィール

宮田 修平

教育学部教授（芸術学士）

1933年生

Profile of cover designer

Syuhei MIYATA

Professor, Faculty of Education

(Bachelor of Arts)

Born in 1933

目 次

Contents

1. 発刊のことは A Message	武村泰男 1 Yasuo TAKEMURA
2. チェンマイより愛をこめて －チェンマイ大学植物バイオテクノロジー研究計画－ A Letter with Love from Chiang Mai, Rose of the North in Thailand	梅林正直 2 Masanao UMEBAYASHI
3. ミシガン州立大学との交流 Academic Cooperation with Michigan State University	羽多野正美 5 Masami HATANO
4. 留学生は自分の国への日本の民間大使である Ambassadors of Japan to Their Own Countries	サンガ・ンゴイ・カザディ 7 SANGA NGOIE KAZADI
5. 三重大学の日本語講座 Evening Japanese Course at Mie University	中畠孝幸 9 Takayuki NAKAHATA
6. 三重大学医学部小児科における国際協力プロジェクトについて International Cooperation Project by the Department of Pediatrics, Mie University Faculty of Medicine	櫻井 實 10 Minoru SAKURAI
7. アジアの地域開発と自然環境・地域環境に関する国際共同調査研究 Conservation and Maintenance of Natural and Urban Environments for Asia Regional Development	清水幸丸 13 Yukimaru SHIMIZU
8. 三重大学概要 15 Outline of Mie University	
9. 国際教育シンポジウム1994 16 International Education Symposium 1994	
10. 編集後記 16 Postscript	

英文は日本語の要約です。

The English is a condensed version of the Japanese.



発刊のことば A Message

学長 武村 泰男

Yasuo TAKEMURA, President

情報化社会の到来と言われるようになって久しいが、遣唐使以来の歴史を見てみると、わが日本人は情報の受信は得意でもどうも発信は下手だ、ということになりそうである。人文系などで昔は指導教官が潔癖な人が多くて、若い人にあまり論文を書かせなかった。質のよくないものを書くくらいなら論文など書くな、ということで、当然のことではあるのだが、そういうムードのなかでは優秀な人でも論文作成に自然慎重にならざるを得ない。だから、あいつはひどく優秀なんだが論文は少ないんだ、というような研究者がよくいたものだそうだ。

昨今は若い人でもたくさん論文を書く人が多くなってきた。もちろん結構なことである。これだけ学問の進歩が急激であると、とくに自然科学の分野では、共同研究や他の研究者の研究との連続性の必要が高いから、明治期以前のような一方的な情報受信だけでは研究もままならないのは当然で、発信にも気を使わなくてはならない。

同じようなことが単に個人のレベルだけでなく、研究機関そのものに関しても言われ得る。貿易でも輸出と輸入とがうまくバランスを取っていないと摩擦が生じるように、研究の世界でも、受信ばかり重要視して発信に力を注がないと、受信そのものが思うようにいなくなる。

そういう訳で、このほど三重大学も情報発信に力を入れようということになった。研究・教育機関としての三重大学がどのような事業を行っているか、どの分野でどのような研究がなされているか、受験年齢層の漸減や留学生の増加等に伴ってどのような問題が生まれてきているか、など、学内においてさえ十分に認識されているとは言えない現状であるから、今回の試みは大変に有意義であると考えている。世界に向かって発信しようという全国的にも珍しい試みなので、大学としてもその反響を大いに期待するところである。

A Japanese envoy to China in the Tung Dynasty observed that Japanese are good at receiving information but poor at sending it.

In the past, a number of Japanese professors perpetuated this with their policies toward younger researchers. These professors would not allow the younger researchers to write many papers. The professors felt only the highest quality papers should be written and the younger researchers were not capable of writing such papers. Naturally, even the most talented researchers did not publish much in that environment.

In the Meiji era or earlier, Japanese scholarship may have been able to depend only on receiving information, but no longer. This is true not only of individuals but also of research institutions. In trade, an import/export imbalance can create friction. Likewise, in research, information must be both received and sent. This is why Mie University has decided to encourage sending information.

Many young scholars now publish papers freely. As knowledge advances so rapidly, it is necessary for them to cooperate in joint projects, especially in the natural sciences.

What projects is Mie University undertaking as a research and educational institution? What fields and what kinds of study do the researchers take up here?

What problems does Mie University face with a decrease of Japanese students and increase of foreign students? The answers to these questions are not fully recognized even on our campus, but we will try to share our perceptions.

Through this publication, we hope to send information to the world. We await with great anticipation the response from our readers.

チェンマイより愛をこめて

—チェンマイ大学植物

バイオテクノロジー研究計画—

チームリーダー 梅林 正直

厳寒の冬も終り、結城神社のしだれ梅、偕楽公園の桜と春らんまんの候、皆様には御健祥のこととお慶び申し上げます。

昨年10月下旬にタイの古都チェンマイに赴任してから5か月目になりますが、苦勞を積み重ねながらもお蔭様で元気にやっておりますので御休心下さい。

三重大学とチェンマイ大学が姉妹校（正確には学术交流協定校）になったのが平成元年8月22日でもう5年、その間に一昨年秋の三重大学国際交流基金設立記念事業にチェンマイ大学チョート学長夫妻が来学されたほか、各部署のさまざまな交流に加えて、日本の政府開発援助(ODA)による「チェンマイ大学植物バイオテクノロジー研究計画(CMUPB)」が昨年8月1日から5年間の計画でスタートし、第1年目のチームリーダーとして私が派遣されました。

チェンマイは、13世紀末(1296年7月)に北部タイ王国の都として建てられた城壁都市で、当時はチェン(都)マイ(新しい)と名付けられたのですが、今では日本の奈良や京都のような古都で、「北方のバラ」と呼ばれており、1,100に及ぶ多くの仏教寺院や旧跡があり、美しい草花と古い文化と伝統を伝えるタイ有数の国際観光都市として有名です。現在の首都バンコクから北へ約600km、空路(1日数便)で1時間、直接出入国が出来る国際空港なのでとても便利です。

チェンマイ大学は、タイの地方の国立大学として初めて1964年に設立され、今年は30周年を迎えます。300ha

A Letter with Love from Chiang Mai, Rose of the North in Thailand

Chiang Mai University Plant Biotechnology Research Project in Thailand

Masanao UMEBAYASHI

Team Leader

Chiang Mai is 700 years old. It was originally a capital of the northern country and still now it has its own culture and warm hospitality, like Nara or Kyoto in Japan. Chiang Mai University has been a sister university of Mie University since August 22,1989.



有名な灯籠流し「ロイカトーン」のお祭りのパレードにくり出したチェンマイ大学の山車(1993年11月28日)

Chiang Mai University's float in a parade during the famous "Loy Krathong" Festival of floating lanterns in Chiang Mai, Thailand (November 28,1993.)

Chiang Mai University was established in 1964 as the first provincial university in Thailand outside Bangkok, the capital. The university has 15 faculties and 104 departments with 14,400 students on a 300 ha campus of many big trees and some original forest. The university brochure states "The number of students has grown faster than available dormitory space. Today only 70% of the student body can be accommodated on campus."

On August 1, 1993, Japanese Official Development Assistance (ODA) started a five-year technical cooperation project entitled Chiang Mai University Plant Biotechnology Research Project (CMUPB). This Project is implemented by the Japan International Cooperation Agency (JICA) with the cooperation of Mie University and Kagawa Uni-

(三重大学の約6倍)の広大なキャンパスに15学部、104学科、3研究所を擁し、学生・院生の数は14,400名に達している。

このチェンマイ大学農学部には、本学生物資源学部と香川大学農学部(交流協定平成2年4月24日)が共同で、国際協力事業団(JICA)の実施によるプロジェクト方式技術協力を行うことになり、タイ北部の農業生産性の向上と農業活性化に貢献するべく、植物バイオテクノロジー研究を通じてチェンマイ大学研究者のレベルアップをはかる目的で、CMUPB研究計画が開始されました。

昨年凶作で緊急輸入されたタイのもち米や長粒のお米は、米菓や外食産業で使われ始めておなじみになられたと思いますが、スシ屋で出されるガリ(ショウガの酢漬)、インスタント食品の乾燥ネギ、ニンニクの芽やベビーコーン、やきとり、えびフライ、カニカマボコなど、タイのものとは知らずに召し上っておられるのです。

5年間の研究計画では、野菜、果物、花などの細胞をフラスコや試験管の中の寒天や液体培地で育てる植物の組織培養や、細胞融合などの手法を用いて、ウイルスのない苗や耐病性の品種の苗を生産する一方、これらを実際の畑に植える時の馴化の問題を培養培地や環境要因の面から研究して、得られた成果をセミナーやワークショップを通じてタイの研究者へ技術移転しようとするものです。

このために毎年、長期専門家(1年以上派遣)が3~4名、短期専門家(1~6か月間派遣)が5~6名ずつ両大学から派遣され、毎年4~5千万円の研究用機材が5年間にわたり計2億円供与されるほか、毎年3~4名の研修員が3~6か月間両大学へチェンマイ大学から派遣され、5年間の研究計画の日本側予算総額は数億円に及ぶODAであり、皆様の血税を有効に役立てるよう全力を盡しております。

対象作物としては、まず野菜はニンニク、ジャガイモ、果物はイチゴ、竜眼、花は蘭から始めて、附加価値の高い輸出可能な農作物の優良苗を生産し普及させることから着手しました。三重県農業技術センターから頒けて頂

versity. Both universities are responsible for dispatching three or four experts long term and five or six experts short term to Chiang Mai University each year. Also, equipment worth 40-50 million yen is supplied each year (200 million yen for five years). Three or four trainees from Chiang Mai University are sent to both universities each year.

I was dispatched alone to Chiang Mai last October to be the team leader of this project for one year.

The project's goal is to contribute towards gen-



本年4月下旬から生物資源学部へ研修員として派遣されるチェンマイ大学農学部研究員 Ms.Kaewalin KUNASAKDAKUL

As a JICA trainee, Ms.Kaewalin KUNASAKDAKUL, Researcher, Faculty of Agriculture, Chiang Mai University, is coming to the Faculty of Bioresources, Mie University, at the end of April this year.

erating agricultural activity and enhancing productivity in the northern part of Thailand, by means of plant biotechnology research at Chiang Mai University.

To establish the technology for a practical production system for selected seedlings for agricultural crops, plant tissue culture and plant protoplast technology research is conducted together with culture medium and environmental effects research for accli-

いた数種類のイチゴの苗をチェンマイまで大事に運び、無事に育って実をつけた時には、これから5年間のバイオテック研究の成果によってチェンマイのイチゴが大きく美味しくなるように祈りながら頂きました。

長期専門家としては、私と木暮秩香川大学名誉教授、岩間勇業務調査員の3名に、秘書、タイビスト、2名のドライバーの計7名の陣容で、新築された大学院事務局棟の3階に4室を借りてオフィスを構えて、本年2～4月にかけて三重大学生物資源学部からは神山康夫、小畑仁の先生方、香川大学農学部から2名の先生方を短期専門家として迎える準備を整えております。

本年1月と2月には、植物のプロトプラスト(細胞壁を除いた裸の細胞)を分離して融合させ

る4日間のワークショップを2回にわたって開催したり、2月16日にはタイのマスコミ関係30名の取材を受けたりと、プロジェクトの立ち上りから多くの来訪者を迎えて忙しい日々を過しております。

春休みや夏休みを利用して、是非タイのおいしい果物や料理、美しい自然や文化を皆様に満喫して頂きたいと心からお出かけをお待ちしております。

タイ仏暦2537年(平成6年)3月

matization of these seedlings to the field. Seminars and workshops based on the above research are offered to academic staff and the public for the purposes of final technology transfer.



「プロトプラストの分離と融合」のワークショップで指導するタイ側のプロジェクトリーダー・チェンマイ大学農学部助教授 Dr.Prasartporn SMITAMANA (中央)

Thai project leader Associate Professor Prasartporn SUMITAMANA, Faculty of Agriculture, Chiang Mai University, teaches at our workshop, "Plant Protoplast Isolation and Fusion".

My dream to live in Chiang Mai, Rose of the North in Thailand, has come true. Please come and see me during vacations, taste the tropical fruit and Thai food, and enjoy the beautiful nature and culture here.

With love from Chiang Mai,
Masanao



筆者プロフィール

梅林 正直

生物資源学部教授(農学博士)

1933年生

Profile

Masanao UMEBAYASHI

Professor, Faculty of Bioresources

(Doctor of Agriculture)

Born in 1933

ミシガン州立大学との交流

国際交流委員（小委員長） 羽多野 正美

三重大学がミシガン州立大学と交流を始めて20年になります。正式に学術交流の調印をしたのは10年前の1983年の秋ですが、それまでの10年間の交流は教育学部が中心でした。その交流は、教育学部の学生を国費でミシガン州立大学へ派遣することから始まりました。人文学部が開設された1983年からは、人文学部からも学生を派遣していますので、今までにミシガン州立大学へ派遣した学生は両学部合わせて36名にもなります。ミシガン州立大学との交流は学生派遣の他、学術資料の交換や、学術講演会の開催等も平行して行なってきました。本学へ招聘したミシガン州立大学教授の数は50名を越えます。本学教授も数名が客員教授としてミシガン州立大学へ招聘されました。私は、その第一号として招聘され、ミシガン州立大学で講演や講義をしました。1977年2月のことです。初めて見る巨大なキャンパスが真っ白な雪の中に広がる様は感動的でした。

ミシガン州立大学は、14学部に43,000人の学生を擁する全米屈指の大学です。芝の緑に映えるキャンパスをリスや野兎が走り回り、学内を流れるレッド・シーダー川では、カヌーやペダルボートで学生たちが川遊びを楽しみます。5,000エーカーを越えるといってもピンとこないでしょうが、縦横、数キロ×10数キロの広大なキャンパスに大きな建物がゆったりと配置されている様子は壮観です。大学独自の火力発電所や警察機構を持ち、日刊新聞を発行し、コミュニケーション学部のテレビ局は朝の連続ドラマまで放送しています。図書館の蔵書は300万冊を越えます。博物館、美術館、プラネタリウム、2,500

座席の大ホールと600座席のエプロン・ステージの小ホールを備えた劇場、ホテル等々素晴らしい施設は枚挙にいとまがありません。76,000座席のフットボール場や36ホールのチャンピオンシップのゴルフコースまであります。



英語の授業

A morning class at Michigan State

Academic Cooperation with Michigan State University

Masami HATANO

Chairperson, Subcommittee, International Programs

Twenty years have passed since Mie University started an academic cooperation Program with Michigan State University. It was in fall, 1983, that both universities entered into a general agreement for academic cooperation. For 10 years before the official signing in 1983, the Faculty of Education had its own exchange program, but it did not include the whole university.

In the first exchange, a Mombusho scholarship student was sent to Michigan State. The Faculty of Humanities and Social Sciences also started sending students to Michigan State in 1983. As of 1993, there have been 36 scholarship students. In addition to sending students, both universities exchange publications. More than 50 professors from Michigan State have been invited to Mie for lectures and seminars and in return for this, several professors from Mie have been invited to Michigan State.

Michigan State University is a leading land-grant university with 43,000 students in 14 colleges. On a campus of more than 5,000 acres, it has its own power station and campus police system. It issues a daily paper, and even broadcasts morning dramas through the TV Station (Channel 23) at the College of Communication Arts and Sciences. It has a foot-

1984年夏に始まった夏期研修は、昨年第10回目を迎えました。学生寮の一つに滞在して、アメリカの大学生活を体験しながら、英語とアメリカの文化を勉強します。午前は10名程度の小人数クラスによる英語の授業です。世界的に有名なミシガン・メソッドという教授法が採られています。授業の先生方は、家庭でのディナーに招待する等、家族ぐるみで遇してくれます。午後には、マイノリティーの問題等、アメリカ文化に関するテーマについてミシガン州立大学教授陣による特別講義を聴講します。課外授業として、エジソンやライト兄弟緑の建物等が移築されているグリーンフィールド村と農業機械や自動車の発達の様子を実物で示す他、アポロ宇宙船やケネディが暗殺された時乗っていた自動車まで展示しているヘンリー・フォード博物館を訪ねます。カナダ（ナイアガラの滝、トロント）への小旅行の他、大学近郊の住民の協力でホームステイも体験します。ホストファミリーとは帰国後も手紙のやりとりをする学生も多く、日本で感激の再会をした学生もいます。この研修には本学の学生であれば誰でも参加出来ます。大学院生や医療技術短



終了式
Awarding of Certificates

期大学部の学生も参加していますし、昨年の夏には中国からの留学生も参加しました。今までに参加した学生は213名にもなります。

21世紀に向けて、日本における国際交流の重要性が今以上に高まることは必定です。その中で三重大学がなす得ることを、全国に先駆けて、指導的な立場で果たすことが必要だと思います。ミシガン州立大学との交流が一つの典型となることを期待しています。



スクエアダンス
Square-dancing

ball stadium with 76,000 seats and two 18-hole championship golf courses. The library holds more than 3 million books.

The summer program was started at Michigan State in 1984 and welcomed its 10th anniversary last summer. In the morning, the program offers an intensive course in English, and in the afternoon, several special lectures on American culture by the professors at Michigan State. There have been 213 student participants in the ten years of the exchange program.

International cooperation will be a matter of supreme importance in the 21st century. I believe that Mie University can be expected to play a leading role in this. Hopefully, the academic cooperation with Michigan State University will be a leading model for international cooperation.



筆者プロフィール

羽多野 正美

人文学部教授（文学修士）

1940年生

Profile

Masami HATANO

Professor, Faculty of Humanities & Social Sciences (Master of Literature)

Born in 1940

留学生は自分の国への 日本の民間大使である

Ambassadors of Japan to Their Own Countries

SANGA NGOIE KAZADI

サンガ・ンゴイ・カザディ

1. 国際交流時代

日本は、世界の経済大国、技術の優れた国として、注目を浴びてきました。世界各国から、様々の分野（経済、教育、技術、文化など）の“Learn from the East”というブームになった。日本政府も、21世紀を目指して、100,000人の留学生を受け入れようと決心して、毎年伸び行く人数で、世界中からの若手を受け入れている。今大学教師である私も元留学生だ。ここで留学生問題について、ちょっと述べたい。

In the last few decades, Japan has gained strong economical and technological muscle, thus securing second position in the world. Now it is facing the process of internationalization, seeing its land invaded by overseas researchers and students — myself being one of them — from many fields.

The Japanese Government has set a target of 100,000 foreign students in Japan by the year 2000. This policy is designed to cope with and enhance its international image.



アフリカ留学生家族(奥様)によるファッションショー
豊川市 91,11月

"African Fashion Show" by African foreign students' wives. (Toyokawa, Nov.1991).

2. なぜ留学生を受け入れる？

様々な目標を持って、日本にやってくる留学生は、ただの日本のお客さんではない。それぞれの国と日本の架け橋の役目を持った人材だとみなしなければならない。日本にいる間に、学問だけでなく、専門以外の日本の生活・文化の理解者になり、自分の国への「日本の民間大使」となる。留学生を受け入れることは、決して人数を増や

I want to stress here that merely accepting foreign students, or increasing their number, cannot be fruitful without some support for these students. These students need housing, laboratory space, language training, cultural understanding, human contexts for social relationships. With these, foreign students can become actively involved in Japanese soci-



交流パーティ
東京・八王子 91,11

Exchange Party in Hachioji
(Tokyo, Nov.1991)

すだけではない。相手の国を助ける以上、世界向けのこれからの日本の国際化の「柱」となる仲間作りだと思う。

これを実現させるために、在日中の留学生に日本の文化を紹介し、身につけて、一員として日本の社会に溶け込んでいける環境を作らなければならない。これの失敗で、帰国後の元留学生が日本バッシングするケースが多い。お互いに本当にもつたないと思う！

3. 未来の相手を育てる

留学生受け入れる側からは、まず留学生とその家族が社会にスムーズに integrate できる環境を提供することが期待される。これのため、hardware (組織、留学生会館、研究室、教材、機材など) も、特に software (言葉、文化交流イベント、人間関係を深める環境など) も必要です。日本人にも、留学生にも、

町や、大学や、基盤になるこのハードとソフトウェアを活かす場所、一緒に住みやすい場所になるように。

この基盤となる環境が整えば、外国人を特別扱いをしなくてもいいと思う。できるだけ早く、言葉をマスターし、同時に、大学の内・外の人間関係を作り、自立した生活が出来るように。なによりも、指導教官と研究室の日本人の学生との理解、協力は欠かせないものである。留学生にとって、この環境が日本との関係の物差しである。

4. おわりに

三重県も、三重大学も、国際的環境作りに熱心。これから、留学生も、日本人も、一緒に、お互いに、閉鎖的でない、楽しい社会・研究生活ができる場所になって欲しい。これが日本の真の国際化に繋がって行くと確信する。



交流パーティ 東京 91.12
左よりサンガ・ブルンジ大使・ザイール大使
Exchange Party in Tokyo Nov.1991
From left to right, Dr.Sanga, H.E.the Ambassador of Burundi, H.E.the Ambassador of Zaire to Japan.



環境問題についての講演ブルンジ (93.8)
A lecture on the Global Environment by Dr.Sanga in Burundi (Aug.1993)

ety and avoid being a hindrance to anyone.

Japan would gain a lot by simply making foreign students' lives more tolerable. One of the most important of these gains could be the good will foreign students can take home. A world-wide network of "Friends of Japan" has to be seen as the most reliable diplomatic base for the future of Japan in the international community.

Given the perspective of the problems and opportunities above, I would like both Mie Prefecture and Mie University to address the difficulties of foreign students living in this area.



筆者プロフィール

サンガ・ンゴイ・カザディ

教育学部助教授 (理学博士)

1952年生

Profile

SANGA NGOIE KAZADI

Associate Professor, Faculty of Education (Doctor of Science)

Born in 1952

三重大学の日本語講座

中島 孝幸

日本語を勉強したいが、する場所がないという留学生のために、三重大学では週に二回（火・金）午後6時から7時半まで日本語講座を開設しています。

講座が始まったのは92年の9月。日本語を学ばずに来日した留学生やその家族から、日本語の初歩を勉強したいという声が高まり、三重大学国際交流基金の事業の一つとしてスタートしました。それまでも一般教育科目・日本語があったのですが、それは一定レベルの日本語を身につけた学部留学生向け授業であるため、日本語の初心者に適したクラスが必要とされていました。

日本語講座は、全く初めて日本語を始める人から中級程度の人まで参加できるよう、日本語能力別に3クラス設定されています。総定員は60名で、留学生、その家族、外国人教師のほか、学外の一般の人も受け入れています。したがって教室にはいろいろな国籍の、いろいろな年齢の人たちが集まっています。職業も、会社勤めの人、英語の先生、主婦、といったようにさまざまです。お母さんのお供をして来る小学校入学前の子供も、慣れてくると行儀よくしています。

日本で暮らしながらの日本語学習ですから、覚えたことがすぐ役に立ち、勉強するほど生活の幅が広がります。そのため、みんな学習意欲は旺盛です。また、大学の普通の授業と違って、成績を気にする必要もなく、なごやかな雰囲気です。

日本語講座が始まってから、三重大学の一角では、夕方になると一般の大学生と違った顔ぶれが集まり、教室からちょっと不自然な日本語の聲が響いてくる、というのが日常的になりました。多くの人に開かれた大学にするという意味からも、それは好ましいことと言えるでしょう。

三重大学には現在百七十名を越える留学生が在籍しています。これからも留学生の数は増えていくでしょう。三重県に在住する外国人の数も増加しており、外国人にとって住みよい社会環境を作ることが求められています。そのような状況の中で、大学の果たす役割もさらに大きなものになってきています。

その一つとして、三重大学の日本語講座をさらに充実したものにしていかなければならないと考えています。

Evening Japanese Course At Mie University

Takayuki NAKAHATA

"I want to study Japanese. But there seems to be no place to study around me." The number of people from abroad is going up in Mie Prefecture, and the need for Japanese language education is also increasing.

For those who feel like the person initially quoted, Mie University provides Japanese courses in the evening from 6:00 p.m. to 7:30 p.m. every Tuesday and Friday. There are three classes, from beginners to intermediate, and a total of 60 people from various countries come together in the classes.

The courses started in September 1992, sponsored by The Mie University International Exchange Fund. Previously, since there was no Japanese course for beginners, international students who had not studied Japanese before coming to Japan were rather at a loss. After setting up the courses, not only the students but also their families found a place where they could learn Japanese.

The classes are also open to people from abroad living anywhere in the prefecture. So you can see in a classroom a businessman, an English teacher, a housewife, and her child too.

We hope to accept many international students at Mie University, and at the same time, we think we play an important role for the people in Mie Prefecture.



熱心な日本語講座受講者達
Students of the Japanese Course



筆者プロフィール

中島 孝幸

人文学部助教授（文学修士）

1956年生

Profile

Takayuki NAKAHATA

Associate Professor, Faculty of Humanities & Social Sciences (Master of Literature)

Born in 1956

三重大学医学部小児科における 国際協力プロジェクトについて

櫻井 實

三重大学医学部小児科学教室による国際医療協力の歴史は、1983年に初めて国際協力事業団（JICA）のガーナ大学野口記念医学研究所プロジェクトに教室員が専門家として派遣されて以来、継続して行われており、1987年からはザンビア大学教育病院感染症プロジェクトにも参加している。遠いアフリカの地で常時2～3名の教室員が、開発途上国の保健医療水準の向上を目指して努力

International Cooperation Project by the Department of Pediatrics, Mie University Faculty of Medicine

Minoru SAKURAI

The international cooperation activity by the Department of Pediatrics has been going on since 1983. The most active parts are Noguchi Memorial Institute for Medical Research (University of Ghana) and Zambia University Teaching Hospital, both of which belong to the medical cooperation project of the Japan International Cooperation Agency (JICA).



ガーナの人達と筆者（右端）
with Ghanaian

を続けている。「プロジェクト方式技術協力」の3本の柱は、①日本からの専門家派遣、②機材の供与、③途上国からの研修員受入れであり、各国から多数の研修員も当教室を訪れ、研究及び現場での実地研修に励んでいる。

ガーナ大学野口記念医学研究所は、1983年4月以降すでに10年以上にわたる当教室との連携があり、派遣された教室員はのべ10名以上を数える。共同研究による論文は、現在17編が発表されており、その研究内容は疫学、感染症学、母子保健、免疫学など多くの分野に渡っている。ひとくちに医療協力といっても、開発途上国に正確な国勢調査のデータが存在する訳はなく、最初はフィー

“Technical cooperation project” contains three branches: ①Dispatch of Japanese experts, ②Donation of materials, and ③Training for trainees from developing countries. Many trainees study hard in our department.

Noguchi Memorial Institute for Medical Research has been keeping the relation with our department for more than 10 years. More than 10 doctors from our Department visited the Institute, and made many kinds of cooperative research seventeen articles have been published in journals whose subjects

ルド調査のモデル村を特定しその人口統計を調べることからはじめた。正確な背景の把握があってこそ初めて疫学調査のデータも意義を持つのである。感染症の中では、途上国に多いマラリア、下痢症などの重要性は言うまでもない。マラリア原虫保有率、クロロキン耐性マラリア、下痢症の原因微生物の研究などが行われた。麻疹、ポリオ、結核、百日咳、破傷風などのワクチンにより予防できうる疫病に関する研究も重要な課題である。麻疹ワクチン接種月齢の検討、耐熱ワクチンの研究など地球レベルで検討が必要な事項の研究も現在進行中である。1993年11月京都で開催された第3回 CVI (Children's Vaccine Initiative) 世界ミーティングには3名の教室員が参加した。今後はマラリア感染、低栄養などに伴う免疫能の変動、遷延性下痢症など新しい課題にも挑戦していく予定である。

ザンビア大学教育病院プロジェクトは1987年4月以降7年を経過しており、最初は新生児集中治療室(NICU)における新生児プロジェクトとしてスタートし、その後感染症プロジェクトとなった。これまでに10名以上の教室員が派遣されており、AIDS、下痢症などが主な研究課題である。

上記の2つのプロジェクト以外にも本教室からは、国際緊急援助隊への医師派遣(カメルーンガス災害)、WHOポリオ根絶計画研修への参加、厚生省国際医療協力

include epidemiology, infection and immunity, maternal and child health.

The first step for epidemiological investigation was a household survey which needed house to house visiting. Malaria and diarrheal disease have been very important targets for research. The parasite rate, chloroquine resistant malaria, and enteropathogenic microorganism were investigated. Vaccine preventable diseases such as measles, poliomyelitis, tuberculosis, pertussis and tetanus are also most important objects of study. The research for heat stable vaccine and adequate time of measles immunization is going on. The third meeting of the children's Vaccine Initiative (CVI) in kyoto (1993) invited 3 doctors from our department.

Zambia University Teaching Hospital Project (JICA) has a seven years' history of cooperation with our department. We started the cooperation project with a neonatal intensive care unit, and then rearranged it as a communicable diseases project. Acquired immuno deficiency syndrome (AIDS) and diarrhea are two major subjects for research.

Moreover, we joined the Japan Medical Team for Disaster Relief (JMTDR), WHO's Polio Eradica-



フィールド村の子供達 (ガーナ)
Ghanaian Children

研究委託事業の分担研究者、研究協力者としての班研究（乳幼児下痢症の治療に関する研究班、開発途上国における小児感染性下痢症対策に関する研究班、発展途上国における母子保健に関する研究班）などの実績があり、国際医療協力の分野でのアクティビティは非常に高い。現在、三重大学医学部をあげてのタンザニア母子保健プロジェクトも計画進行中であり、今後のさらなる発展が期待される場所である。

tion Program Training Course, and the Grant for international health cooperation research (Ministry of health and welfare, Japan). In addition, an international project sponsored by the Mie University, Faculty of Medicine, "Maternal and Child Health Project in Tanzania" is going to be launched. International medical cooperation activity is one of the most energetic parts of our department.



フィールド村の診療所における診察風景（ガーナ）
Medical Examination (at a Ghanaian country clinic)



筆者プロフィール
櫻井 實
医学部教授（医学博士）
1936年生

Profile
Minoru SAKURAI
Professor, Faculty of Medicine
(Doctor of Medicine)
Born in 1936

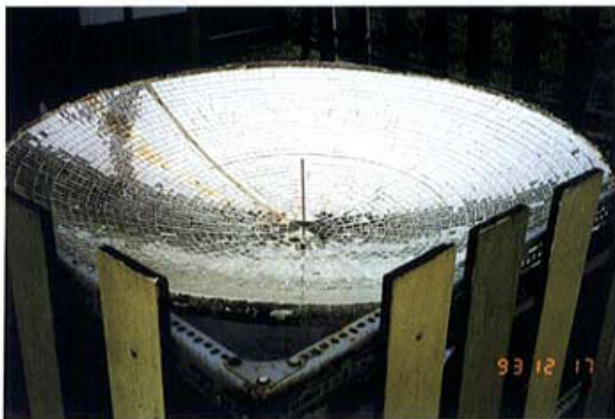
アジアの地域開発と自然環境・地域環境に関する国際共同調査研究

—三重大学・国連地域開発センター
(UNCRD) との国際共同研究—

三重大学国連協力推進委員会委員長 清水 幸丸

概要

三重大学では国連地域開発センター (UNCRD) との協定により、「アジアの地域開発の促進をはかるとともに、その開発が同時により良い地域環境ないし自然環境の設定に資するための調査研究」について、国際的な共同調査研究を行っている。調査研究の対象国は、インドネシア、マレーシア、フィリピン、タイ、ベトナム、ラオス、スリランカ、インド、中国、韓国、ヘルシヤ湾沿岸諸国、サウジアラビア、アフリカ・ザイール、東欧



2 KW 太陽熱集熱器の模型実験(マレーシア・ペルタニアン大学)
2 KW Model of solar Heat Collector(University of Pertanian, Malaysia)

チェコ、ポーランドと広範囲にわたっている。調査研究を行うに当たって、上記の相手国に研究協力大学あるいは研究所を求め、それらの大学・研究所の研究者および UNCRD 研究者、三重大学研究者を加えた三者でグループを形成し調査研究に従事する。さらに、現在、三重県をはじめとした津市、四日市市といった自治体、および産業界との協力連携を鋭意準備中である。

国際共同調査研究の研究テーマを紹介してみよう。

- (1) 地理情報システムの応用による熱帯雨林、砂漠、地方都市および農村情報の収集整備；人工衛星を使った各種情報のデータベース作成 (インドネシア、フィリピン、ラオス、アフリカ (ザイール) 等)
- (2) 中小都市の育成と地域開発：観光開発や文化遺産に基づく地域づくり、歴史的都市を中核とする観光開発・都市開発 (中国・東南アジアの都市を対象とする調査研究)
- (3) 国際労働力移動と外国人労働者問題

Conservation and Maintenance of Natural and Urban Environments for Asia Regional Development

—Mie University-UNCRD Joint Research Project on Environmental Management and Regional Development in Asia—

Yukimaru SHIMIZU

Chairman, Organizing Committee for the Mie University-UNCRD Joint Research Project

The joint research project between Mie University and UNCRD (United Nations Centre for Regional Development) was launched in July 1993 with the objective of promoting scientific studies of environmental management and regional development in Asian countries. More than 220 researchers are involved in the joint research project: About 110 faculty members of Mie University; 15 staff members of UNCRD; and about 100 researchers of the collaborating universities and institutions in Southeast and East Asian countries, Indonesia, the Philippines, Thailand, Laos, Vietnam, Malaysia, Sri Lanka, India, China, Korea, Gulf countries, Saudi Arabia, Africa (Zaire), and East Europe (The Czech Republic, Poland), and others.



100KW 出力の太陽熱集熱器 製作中(マレーシア・ペルタニアン大学)
Solar Heat Collector with 100KW output Constructing(University of Pertanian, Malaysia)

The joint research project consists of six sub-projects dealing with the following specific subject domains:

- (1) The application of geographical information systems(GISs) for monitoring tropical forest resources and the urban environment;

アジア5ヶ国（フィリピン、マレーシア、タイ、韓国、中国）、東欧（チェコ、ポーランド）の海外調査と日本、特に東海地方（三重県）の外国人労働者の実態調査が行われる。

- (4) アジアの地域開発と都市および近郊農村の環境
 - (a) 熱帯の自然環境保全と農業収入の増進
 - (b) 養殖技術（えび、その他の魚）およびマングローブ林等の周辺環境との環境調査
 - (c) マングローブ林の調査、熱帯雨林の調査、その他昆虫等と農業の関係
- (5) 環境調査および調査手法の開発研究、アジア諸国への適用方法の開発および環境関係各種条例の移転研究、都市環境改善における地方公共団体の役割についての調査研究
- (6) アジアの環境・エネルギー・健康情報データベースの作成
 - (a) 環境情報・環境技術の移転研究
 - (b) エネルギー開発の実情調査とエネルギー技術の移転および開発方法
 - (c) アジア諸国のえき病および公害による健康障害、公害発生状況の調査研究、アジア各国の障害者の実態調査とその教育

以上のごとく、研究テーマは、広範・多岐にわたっている。これらの研究テーマに三重大学が百数十名、UNC RD十数名、調査相手国大学・研究所の研究者、自治体関係者、合計二百数十名が参加する。一大アジア調査研究である。



車搭載用パームオイルエンジン 実証走行実験中(マレーシア・ペルトニア大学)
Testing Palm Oil Engine applied to Car(University of Pertanian, Malaysia)

スタート段階として、まずは2年間をめどに調査研究を行う。結果を見て、延長も考える。この研究によって、日本を含めたアジア諸国の諸関係、諸現象がより科学的に認識され、発展的な諸関係構築のデータになることを念願している。

- (2) Development and conservation policy for historic cities;
- (3) Cross-national labour migration and regional development;
- (4) Tropical agricultural development and income generation in rural Asia;
- (5) Alternative approaches to urban environmental planning and management with special focus on the role of local government;
- (6) Data-base development in the fields of environment, energy and health.

All the participants in this Joint-Research project are very active and resourceful. Fruitful results are expected.



100KW 太陽集熱器のそばで筆者
Solar Heat Collector with 100KW output

Please, contact me if you have an interest in the joint research project.



筆者プロフィール

清水 幸丸

工学部教授（工学博士）

1940年生

Profile

Yukimaru SIMIZU

Professor, Faculty of Engineering
(Doctor of Engineering)

Born in 1940

大学概要



- 所在地
〒514 三重県津市上浜町1515 ☎0592-32-1211
- 学部、学科 [入学定員]
人文学部 [295]
文化学科 [95] : 社会科学科 [200]
教育学部 [330]
小学校教員養成課程 [160] : 中学校教員養成課程 [70]
養護学校教員養成課程 [20] : 幼稚園教員養成課程 [20]
情報教育課程 [60]
医学部 [100]
医学科 [100]
工学部 [410]
機械工学科 [105] : 電気電子工学科 [110] : 分子素材工学科 [110]
建築学科 [45] : 情報工学科 [40]
生物資源学部 [306]
生物資源学科 [306]
計 [1,441]
- 研究科 [入学定員]
人文社会科学研究科 [10]
教育学研究科 [34]
医学研究科 [60]
工学研究科 [74]
生物資源学研究科博士前期課程 [88]
博士後記課程 [12]
計 [278]
- 専攻科 [入学定員]
特殊教育特別専攻科 [30]
- 別科 [入学定員]
農業別科 [30]
- 医療技術短期大学部 [入学定員]
看護学科 [80]
- 職員の定員
1,818人
- 総土地面積
5,472,691㎡

Outline of Mie University

- Location
1515 Kamihama-cho, Tsu-shi, Mie 514, Japan
- Faculties, Departments, Courses [Capacity of Admission]
Faculty of Humanities and Social Sciences [295]
Humanities [95] : Social Sciences [200]
Faculty of Education [330]
Training Course for Primary School Teachers [160] : Training Course for Junior High School Teachers [70] : Training Course for Handicapped Children's School Teachers [20] : Training Course for Kindergarten Teachers [20] : Course for Informative Education [60]
Faculty of medicine [100]
Medicine [100]
Faculty of Engineering [410]
Mechanical Engineering [105] : Electrical and Electronic Engineering [110] : Chemistry for Materials [110] : Architecture [45] : Information Engineering [40]
Faculty of Bioresources [306]
Bioresources [306]
Total [1,441]
- Research Divisions [Capacity of Admission]
Graduate School of Humanities and Social Sciences [10]
Graduate School of Education [34]
Graduate School of Medicine [60]
Graduate School of Engineering [74]
Graduate School of Bioresources Master's Program [88]
Doctor's Program [12]
Total [278]
- Graduate Course [Capacity of Admission]
Graduate Course of Special Education (Majoring in Education for the Mentally Retarded) [30]
- Special Course [Capacity of Admission]
Special Course of Agriculture [30]
- College of Medical Sciences [Capacity of Admission]
Nursing [80]
- Number of Faculty and Staff
1,818
- Total Land Area
5,472,691㎡ (= 1,352 acres)



国際教育シンポジウム1994

INTERNATIONAL EDUCATION SYMPOSIUM 1994

21世紀におけるアジアの教育を考える

—アジアにおける経済・工業発展と人材開発—

EDUCATION IN 21ST CENTURY ASIA

—Human Resources Development and Economic and Industrial Development—

日時：

1994年5月13日13時00分—17時00分

同上 5月14日9時30分—16時30分

場所：

津市リージョンプラザ

津市西丸之内23番1号

招待講演者：

オーストラリア、スリランカ、タイ、フィリピン、マレーシア、韓国、中国、日本から12名

参加費：無料

Date：

13th May 1994, 13:00-17:00

14th May 1994, 9:30-16:30

Venue：

Tsu City Region Plaza

23-1 Nishimarunouchi, Tsu City

Presentators：

12 Presentators from Australia, Sri Lanka Thailand, The Philippines, Malaysia, Korea, China, Japan

Open to the Public : Free of charge

国際教育シンポジウム実行委員会

International Education Symposium 1994

Executive committee

代表 三重大学教育学部長 作野史朗

Shiro SAKUNO, Coordinator

Dean, Faculty of Education, Mie University
Office

問い合わせ先

〒514 津市上浜町1515 三重大学教育学部

電話 0592-31-9206 FAX 0592-31-9352

1515 Kamihama, Tsu, Mie 514, JAPAN

Phone 0592-31-9206 Fax 0592-31-9352

編集後記

日本の中央部にあって、東日本と西日本の接点に位置する三重県は、自然・文化・生活・風土に多様な特色もっている。三重大学はこの地域の学術文化のセンターとして半世紀に近い歩みを刻んできている。この間地域にねざし世界に通じる教学の充実をはかってきたが、ここに大学広報紙「ウェーブ」を創刊して、研究・教育の成果を県下をはじめ広く全国に発信し、あわせて国際化の進展を見通してグローバルに情報を伝えることにした。このことによって大学も学外からその内容がみえるようになり、改めて教学が鍛え直されることにもなろう。

かつて1600年豊後国（大分県）に漂着したオランダ船リーフテ号は、日本をとりまくアジアやヨーロッパとの国際交流に新しい局面を生み出したが、この船首にはルネサンス運動の先駆者エラスムスの木像がとりつけてあった。今も栃木県の寺に保存されているが、遠くヨーロッパ文明がこのような形で伝播したことに深い感慨を抱く。同じ頃東南アジアに進出した伊勢大湊（伊勢市）の商人角屋の活動にも思いをはせ、三重大学の学術の一端をここに発信する。国際交流特集として「ウェーブ」を創刊し、大学への認識を深められるよう広く求める次第である。21世紀にむけて本紙自体の多彩な発展を期待したい。

Postscript

Located on the border between Eastern and Western Japan, Mie Prefecture offers unique natural, climatic, cultural and social conditions. Mie University, in the capital Tsu, has aimed at local and global education and study for about half a century

By issuing **Wave**, a new university public relations magazine, the university hopes to spread the fruits of its research and education to people around the world.

We hope **Wave** will promote greater understanding of Mie university, just as the 17th Century Mie shipping merchant Kadoya contributed to cultural exchange between Japan and other countries.

酒井 一

学生部長

Hajime SAKAI

Public Relations Officer



平成6年3月

編集発行

三重大学広報委員会

委員長 酒井 一

委員 久慈 利武 織田 揮準

〃 嶋 照夫 玉置 維昭

〃 上野 隆二